

「素晴らしいご縁をいただきました」

兵庫教区仏教青年会連盟 理事長 戸田 磊

ミャンマーからの留学生 オカピョオ君が、「田植え」を手伝いに、私が住んでいる三木へ来てくれました。

きっかけは、兵庫教区「御同朋の社会をめざす運動」委員会の会議での、コロナ禍の中、大学生が非常に困っているというお話をでした。

親からの仕送りは減り、また途絶え、アルバイトも飲食店が主だったため収入が激減し、学業を断念する学生も多いとのこと。私は身近に大学生がいないので、知りませんでした。そこまでのことになっているのかと、ショックを受けました。何か支援はないものか・・・というのが、会議の内容でした。

私は、会議中まったく案が出てきませんでした。会議（オンライン会議）が終わっても、支援！？「はてさて、う～ん。はてさて、う～ん」ばかりで、重たい気持ちでした。

ふと、「たしか教区仏教のスローガンの一つに『できることから始めよう』があったな！今、自分に『できること』でいいんだ」と考え直すと、重たい気分から解放され、案が浮かんできました。

教区の先生にすぐに連絡。「今から私の田んぼで田植えが始まります。オペレーターの助手として働いてもらうはどうでしょうか」と提案をしました。

教務所職員のYさんがすぐに手配してくれました。「日本人ではなく留学生なのですがOKでしょうか？」と。そりや、留学生も困っているだろう、とOKしました。話は進み、ミャンマーの留学生を支援しているNPO団体の方を紹介され、あとはその方とのやり取りでした。

ミャンマーは今、大変な時。学生さんも集会だろうと半信半疑でしたが、田植え10日前に、NPO団体の方より「1人行かせていただきます」と連絡がありました。

5月29日(土)の田植え当日、約束の駅に迎えに行きました。

オカピョオ君は、笑顔よしの好青年でした。

田植えは初めてとのことでしたが、良く働いてくれました。また、勘がいい！

私の手元まで苗を上げてくれました。

作業内容は、①苗運び ②苗の手渡し ③「トンボ」で「ほ場」の凸凹ならし ④箱洗い

私も62歳で、長年1人で田植えをしており、「体キツク」て・・・「おお助かり」でした！

決して支援ではありません。田植え作業の「労働と報酬」。小さいけれど経済活動です。仕事ははかどり私の体も楽。オカピョオ君は現金を手に入れる。お互い様のwin-winです。次は6月12日(土)にまた来てもらいます。

帰り、駅までの車中で恋人の写真を見せてくくれて、コロナが落ち着いたら結婚したいとのことでした♥

色々混ざりの言葉で話してくれて・・・でも聞こうと心がけたら解るもんですね！

来年、オカピョオ君が来れなくても、またミャンマーの学生さんと田植え仕事を一緒にしたいと、今そう思っています。

=農家のご門徒様へ=

「あっ、その手も有りだな」と思われましたら、どうか学生さんに仕事の機会を与えてください。今、本当に学生は困っています。

田植え期間に間に合わなかったら、秋の収穫の糀運び等々。

門徒さん仲間で、営農組合・法人の方々、桃・りんご・ぶどう、果樹園を経営なされている方々、2、3名を受け入れようかとなれば、小さな経済活動から支援活動になると思います。

【窓口】私の場合、教務所の職員さんでしたが、お近くに大学があれば大学生協。

『素晴らしいご縁をいただいた』兵庫教区教務所のYさんに感謝いたします。

合掌

